

麻布大学

いのちの博物館



麻布大学の長年の夢であった博物館が創立 125 周年を記念して 2015 年 9 月に開館した。これまで蓄積されてきた動物標本を中心に教材、歴史的資料などを展示した。大学博物館らしさとして、学生による解説も好評を得ている。博物館には地元の市民や小・中学生も訪問しており、大学の社会貢献である地域連携を具体的に進めることにもつながっている。

1. 開館の準備

創立 125 周年を機に「麻布大学いのちの博物館」という名前で開館した。学生食堂をリフォームし、半年で改修、内装、レイアウト、標本選定、解説文などの準備をした。展示内容を検討し、動物標本の紹介、研究内容の紹介、大学歴史の紹介を 3 本柱とすることにした。



麻布大学いのちの博物館の外観

学術的な価値と同時に一般来館者に印象的であることを目指して、ゾウとキリンという大型獣の全身骨格を組み立てることにした。

獣医学コーナーでは江戸時代の民間馬具、血管のプラスチック模型、頭骨標本、病理学標本などを展示した。動物の進化や形態学を紹介するコーナーでは大型獣のほか、イルカなどの全身骨格などを展示した。また前肢の比較としてイルカ（泳ぐ）、コウモリ（飛ぶ）、モグラ（掘る）、サル（掴む）など機能による違いを示した。



ゾウの展示コーナー

生命・環境科学コーナーでは古い環境分析機器、有害昆虫の標本や図鑑用の原図などを展示した。

歴史コーナーでは大学の沿革についての年表のほかに、それぞれの時代の学生や先生方のこ

とばを紹介し、冊子も作成した。また先人の代表として戦後の大学を復活させた中村道三郎先生と初の女性動物園長として活躍された増井光子先生を紹介した。

これらの解説文はできるだけわかりやすく、また子供用に送り仮名つきのものも作成した。

2. 開館して

来館者のアンケートによると 90% 以上の人が「とてもよい」または「よい」と答えている。展示がきれい、解説がわかりやすい、学生の解説がよいなどの声が多い。土曜日には骨にさわられる「ハンズオンコーナー」を開放している。これはたいへん好評で家族連れのリピーターも多く、担当する学生への教育効果も大きい。

3. 個性的な博物館として

アンケートでは、もっと大きく、もっとたくさんという要望も多いが、本館は小さいながらも、落ち着いて、内容濃く、じっくりと学ぶという本学らしさが出ることを大切にしたいと考えている。地元の園児、小・中学生からご年配まで幅広い世代の訪問があり、大学が力を入れている地域連携を具現する場所ともなっている。

4. 御利用案内

(詳細は <http://www.azabu-u.ac.jp/sp/life-museum/>)

- ・開館日時：火～土 10:00～16:00
- ・休館日：月、日、祝日
- ・入館料：無料
- ・問合せ先：042-850-2520 (受付・直通)
museum@azabu-u.ac.jp
- ・アクセス：JR横浜線「矢部駅」北口から徒歩約5分

